



とやま親学び通信

令和元年7月8日発行
富山県教育委員会 生涯学習・文化財室

暑さが厳しくなってきましたが、推進リーダーのみなさんは、お元気でお過ごしでしょうか。

6月には「親学び推進リーダー等研修会」に参加いただき、ありがとうございました。今回の親学び通信は、研修会で話題になったことを中心にお伝えします。

(中略)

2 「推進リーダー等研修会」での話題から

①「親学び講座」の名称がかたいのでは？

「親学び講座」という名称は、平成18年度から作成してきた「親を学び伝える学習プログラム」を活用して行う講座ということを指しています。

参加者を募る際は、「すること」「雰囲気」「目的」が伝わるように、「親同士の語り合い」「気軽に親カフェ」「親が元気になる会」など、みなさんのアイデアで名称をつけてください。

②推進リーダーとして、まず何をすればよいの？

担当の小中学校へ「親学び講座」やりませんか？と投げかけてください。リーダーさん自身が「親学び」に参加した時に感じられたことをそのまま伝えていただくので十分ですが、説明用の資料が必要な場合は、県教育委員会までご連絡ください。



③たくさんの方に参加してもらえる？

せっかくなら多くの人に参加してほしいと思う方が多いようですが、人数にとらわれずに開催されるのもよいと思います。親学びのよさが着実に広がります。

多くの人に親学びを知ってもらうことを目的とする場合は、保護者が多く参加する行事に親学びを組み込むことが有効です。教頭先生やPTA会長にご相談ください。

④一人でやるの？ 講座の進行は、難しそう。

開催することが決まったら、PTA役員さんなどに協力を求め、役割や使用するプログラムを決めていきます。多くの方に協力していただくことで、親学びが広がります。

講座の進行は、誰が担当しても構いません。進行される方は、手引きや簡単マニュアル(県P連ホームページに掲載)もありますので、参考にしてください。手引きは、HP子育てネッ!とやま→学ぶ→親を学び伝える学習プログラム (<http://www.pref.toyama.jp/sections/3009/hp/>)から取り出せます。

⑤みなさんの工夫をもっと聞きたい。

これまでのリーダーのみなさんから寄せていただいたアイデアは、HP子育てネッ!とやま→学ぶ→推進リーダーのみなさんへから取り出せます。

また、8月、10月、1月に開催する「スーパーリーダー等研修会」でも、リーダー間での意見交換を行います。ぜひ、ご参加ください。



【参考】

「親を学び伝える学習プログラム」は、子育ての悩みや課題を共に語り合いながら、子供の育ちに本当に必要なことはどのようなことであるかを一緒に考えながら、元気が出る、ヒントが得られる機会を増やして、親も子も一緒に成長し、今の子供たちが、将来の子育てに楽しみや希望をもって取り組んでほしいという想いから作成されました。

H20発行「親を学び伝える学習プログラム手引書」より抜粋

2 「親学び講座」ってどんなもの？

「親学び講座」では、日ごろよく経験するエピソードを題材にグループワークを行います。親同士で楽しく語り合う中で、子育ての悩みを共有したり、親の役割や子供とのかわり方について考えたりしながら、わが家なりの子育てを見つけていきます。

「親学びノート(小・中学生編)」を使うと、気軽に「親学び講座」が開催できます。

【実施例】

1 エピソードを読みましよう。

読んでいる話の12
さくらさんは、スマートフォンを買ってもらい嬉しかった。言葉で話しかけてルールを作り、それを守っていくことを約束しました。しかし、半年がたると、さくらさんのルール違反の行動が目立つようになりました。
お母さん：「さくら、約束の時間が過ぎているぞ、さくらさん！」「だって、一(笑)」
親学びノート(小・中学生編) P7・8から抜粋

【親学びノート(小・中学生編)】



<小中学校PTA向けの資料>



HP「子育てネッ!とやま」から

